

避難所のQOL向上

～高校生が関わる避難所運営を目指して～

【アブストラクト】

本研究は、避難所生活のQOL向上を目標とし、その原因として避難所の運営に問題があるのではないかと考え、調査を行った。その問題を解決する手段として、高校生が積極的に関わっていくことでより運営がスムーズになると考えた私達は、①高校生が運営を手伝うための安全確保をするための名簿の作

成、更に高校生の力を効率よく分配する、②適材適所を意識した役割分担制の提案の2つを行った。まだ大規模な災害が身近で発生していないため、これらをすることでQOLが向上したか否かは、判断できていないが今後機会があればその効果を実証していく。

キーワード: QOL 避難所運営 高校生ができること 適材適所

【本文】

I. はじめに

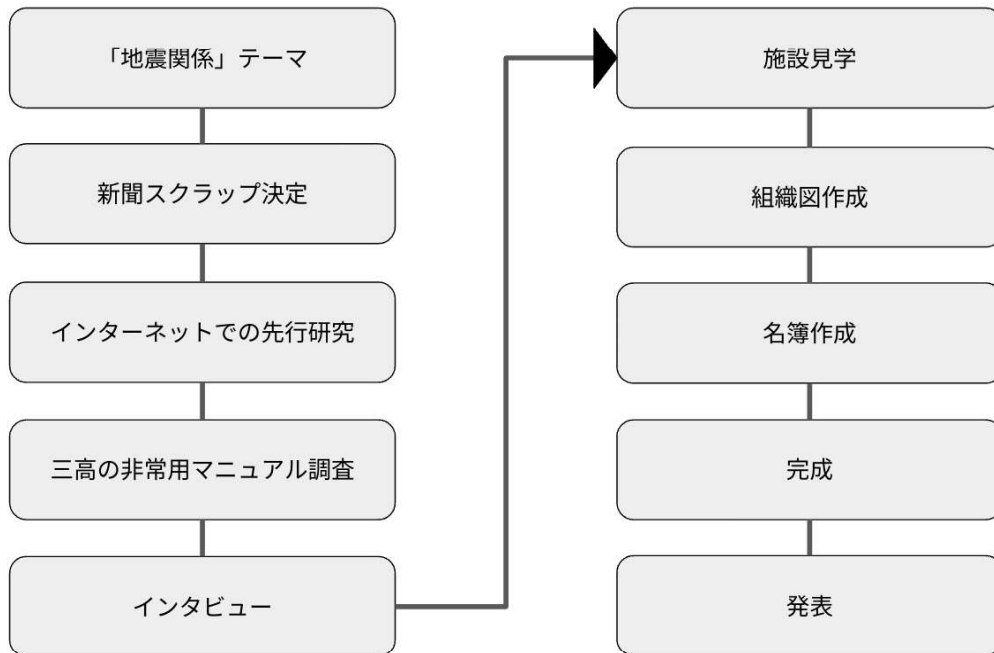
災害が多いとされる日本では、度重なる災害で多くの方々が命を落としている。そこで私達は災害時に重要となる避難所に焦点を当てて調べることにした。そんな中で、避難所生活において、災害関連死が多いという課題に直面した。実際に東日本大震災では3789人が災害関連死として認定されていた。私はこの現状をどうにかして改善したいと考えた。災害関連死を減らすためにはやはり環境の整備が大切である。このような私の意見と同様に、班員も同意見であったため、私達は「避難所生活のQOL向上」を図ることで、災害関連死の減少へとつなげようとした。具体的には私達ができることとして何か関われる方法を模索しようと探究活動に励んだ。



(資料1)
新聞スクラップ

II. 研究方法

避難所のQOLを向上させるためには、現在の避難所における課題を自分達を知り、その原因をある程度絞る必要がある。そしてその原因を元に自分達が考える課題を解決していくためには、確かな情報が必要になる。そこで私達は先行研究に加え、避難所についての知識や実体験を持つ方々へインタビューを行い、考える解決策が妥当かどうかを吟味し、更に視野を広げるために他地域との比較も行うべきだと考えた。以上のことから私達は下図の研究方法を取ることにした。



III. 研究内容

○原因調査

まず避難所のQOLを下げている原因として、5つの原因を考えた。

1. ライフラインが壊れている中での衛生管理、感染症対策等
2. 避難所の整備(明るさ、音など)
3. プライバシー・安全面(プライベート空間の確保、更衣室、性暴力・性被害、貴重品管理)
4. 物資の支援(支援ニーズ、アレルギーによる食料関連、育児関連、女性物関連)
5. 精神的なケアが十分かどうか

私達は、これらのことに共通しているのはどれも運営側が関わっている問題ではないかと考えた。そこで避難所運営の状況を更に調査した。

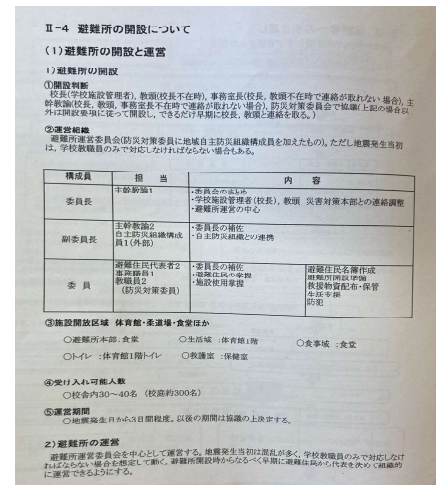
①【仙台第三高等学校における災害時の避難所マニュアル】

先行研究の1つとして、三高における避難所の運営マニュアルについて調査を行った。

・気付いた点

そこには三高自体が長期的な避難所とはならないため、あまり詳しい内容が書かれていなかった。そこで私達は、地域全体の状況について東日本大震災で特に被害が大きかった石巻市を例に調べることにした。また国が出しているマニュアルについても調べ、それぞれで気付いたこと、疑問点等をまとめ比較した。

(資料2) 仙台三高の避難所マニュアル ➡



②【資料の比較】

<p>災害避難時における要援護者支援マニュアル 平成18年4月 石巻市</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・平成の時点のもので変わっている可能性がある ・学校における避難所運営に関しては書かれていないが地域ぐるみでの体制整備については書かれている ・現在における地域支援体制について更に調べる必要あり
<p>石巻市職員災害時初動マニュアル(共通編)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・市として学校の教員の役割について言及しているのか ・市職員と学校の連携はどのようであるか

※これらの資料の情報源は国や自治体であるので信頼性が高い

これらの文献の調査を踏まえ、私達は学校における避難所運営の際のマニュアルの改善を図ることにした。

また以上の資料より生じた疑問点を解消し東日本大震災時について詳しく知るために当時の運営側の状況を知る方に直接インタビューを行った。

○インタビューの実施

山田葉子さん[当時:避難所となった石巻市渡波小学校本部で活躍
現在:石巻市 3.11 メモリアルネットワーク代表]

山田さんからは、東日本大震災当時の状況を踏まえ、あったほうが良いもの、改善すべき点、更に高校生が出来ることについて、主に2つのアドバイスを頂いた。

<p>①来客などの安否・安全確認</p>	<p>②生徒情報センターみたいな役割のもの</p>
----------------------	---------------------------

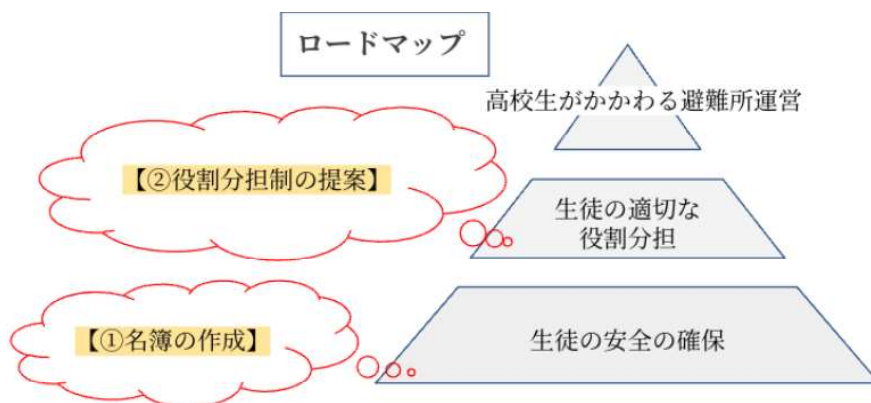
<p>緊急時に生徒の現状の詳細を把握できるような何かがあると良い</p> <p>その情報を一覧でわかるように表にまとめる</p> <p>↓</p> <p>あらかじめチェック項目の名簿を作っておけば、高校生もこの役割を担うことができるのではないか</p>	<p>教師は仕事が多く手を煩わせてしまう</p> <p>↓</p> <p>生徒の代表者である生徒会が生徒の情報窓口としてワンクッション</p> <p>↓</p> <p>生徒や避難者の要望を取捨選択しまとめて教師に伝達</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒間の面識有→本音を集めやすい ・既に命令形等が明確→円滑な準備・開始が可能
--	--

○ロードマップの作成

先行研究とインタビューを踏まえて、私達は高校生が関わる避難所運営のあり方を模索するという具体的なゴールを設定した。そのために次の2つのことが必要だと考える。

<p>①安全・安否確認のための名簿作成</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急時に人それぞれの状況を整理し視覚的に見やすくすることに役立つ
<p>②生徒についての役割分担制の提案</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教師(大人)の仕事を分散させる ・既存の命令形態を使用することで、円滑な準備が可能となる

これらのことを踏まえ、自分達の考えた課題解決に向けて探究する道筋を整理した方がいいと考えた私は、班員の意見をまとめロードマップを作成した。



(図3)ロードマップ

○施設訪問(他地域との比較)

この研究はあくまでも、私達の住んでいる地域をベースとして考えているため、視野を広げて一般化できるよう、他地域との比較を行った。

人と防災未来センター (兵庫)	<ul style="list-style-type: none"> ・主に阪神・淡路大震災について、当時の被害状況や避難所の様子が学べる施設になっていた。 ・当時も同じように避難所の運営に多くの課題があり、運営のスムーズ化が問題となっていたことが展示物から読み取れた。 ・被災時期が冬だったこともあり、避難所の環境は被災者にとって十分だとは言い難い状況であった。 	以上の比較状況から、やはり地域がどこであれ、避難所運営が直面する課題は同じであることが分かった。
--------------------	---	--

○作成

①名簿

名簿の項目としては、

1. 続柄(クラス、番号、生徒であるか、他の住民であるかなど)
2. 名前
3. 帰宅できるか
4. 怪我の有無
5. 家族などと連絡が可能か
6. 帰宅するか残るか
7. 移動先(移動するとしたら、避難所から家に帰るのか、他の避難場所に移動するのか)

この名簿と、他の避難所で多く用いられる従来の名簿の違う点としては、従来のものは健康状態の確認に重きを置く一方で、この作成した名簿は生徒たちがどのような状況にあるのか、手伝えるような状況であるのかを、生徒の周囲の環境を名簿のような形式で知ることを目的としているということだ。人それぞれの状況を視覚化して整理しておくことで、どの生徒に手伝いを頼めるのかがはっきりするため、円滑な運営へとつながる。

なおこの作成した名簿をあらかじめ印刷して紙媒体にしておくことで、災害が発生したときに容易に用いることができる。

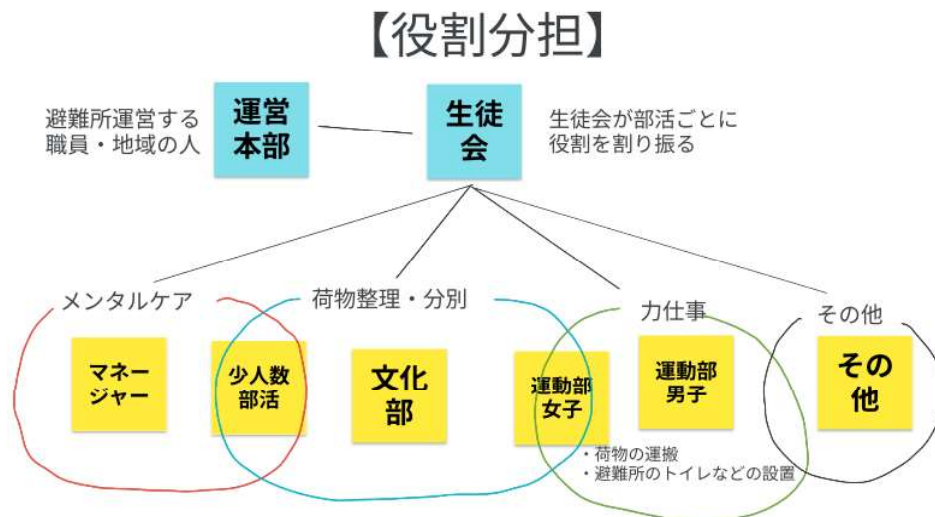
A	B	C	D	E	F	G	H
番号	続柄	名前	帰宅できるか	怪我の有無	連絡の可能不可能	帰宅or残る	移動先
例) 1	生徒 2404	佐藤 花子	できない				
1							
2							
3							
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							
16							
17							
18							
19							
20							
21							

(図2)名簿

②適材適所を意識した役割分担制

次に私たちが円滑な避難所運営に必要だと考えたのは、もともとのまとまりの強さを生かした適切な役割分担制の提案である。私達がこの仕組みを考えるときに強く意識したのは、適材適所ということだ。生徒

それぞれには得意不得意があり、それぞれの特性にあった役割を当てることで、より効率的に避難所の運営ができると考えた。また組織図のように仕事系統を明らかに指せることで、もともと学校に存在する生徒会や部活といった、まとまりの強い仕組みを活用することで、パニックに陥りやすい状態にある避難所でも、柔軟な対応が見込める。また運営する本部との連携も図ることができ、結果として避難所運営の円滑化へと繋がる。



(図3) 役割分担の組織図

IV . 考察

【班の考察】

今回の探究では名簿と役割分担の組織表を制作し、災害が起こった直後の対策を提示した。この経験は、復興時の自分の役割や存在意義を考えることに役立つ。

災害が発生するといった非常時は、誰しも気が動転し物事を冷静に判断できなくなる。だが、私たちはこうした災害に関する探究テーマを取り上げたことで防災に関する知識が深まっただけでなく、高校生(若者)としてどのように役に立つことができるのか、何をしたら誰かを助けることに繋がるかを学ぶきっかけになった。非常時は、皆自分自身のことで精一杯で他人のことを気遣っている余裕などない。そんなときに自分で考えて動ける人材はとても重宝され、必要とされるに違いない。

しかし、私たちの探究には信憑性、説得性が足りないのだ。私たちが考えたシチュエーションは地震発生直後の話である。つまり、避難訓練で実践することができないものなのだ。よって、理論的には筋が通っていても、論理と現実には相違が生じるのがつきものであるがゆえ、不都合が発生することが大いにあり得るのだ。今回考えたことがあっていれば非常時に役に立つだろうが、根本から間違っていれば、また修正をかけなければならない。そのトライアンドエラーを行えなかったことが私たちの探究の最大の弱点であると言える。

【個人の考察】

私たちの探求は他の被災地の避難所へ行き、この枠組みを活かして、運営に関わることが出来ると思える。自分たちの役割が明確になったという点において、高校生にとって、どこの避難所にいるとしても迷い

なく手伝うことが出来るきっかけとなるだろう。しかし、この探求において、避難所のQOL向上という課題に対して、私達が考えた解決策による効果や改善を図ることが出来なかった。その理由としては、実際に避難所が長期にわたって開設されるような大災害が発生し、そこで初めて実証出来るため、そのような状況が怒らない限り難しいというやむを得ない状況がある。そのため私たちの探究活動は未だ続いている。今後の展望としては万が一災害が発生した場合には自分たちが考えた仕組みを元に、積極的に避難所運営に関わり、効果を実証していきたい。またそれと合わせて、この高校生が関わる避難所運営というものを、仙台市や宮城県に留まらず日本全国、多数の地域に広める活動も引き続き行っていきたい。

V. おわりに

東日本大震災を含め、多数の大きな地震を経験してきた私たちにとって、災害は生きていく上で無視できない問題だと思う。その災害に対する備えや問題について探求できたことは、今後私の人生において糧となるに違いない。またこの探究活動を進めてきて、自分の防災に関する知識が多数得られたこと、防災意識が向上したこと、という効果があった。ここで得た知識を自分だけのものに留めるのではなく、周りの人、更にこれから生まれてくるであろう未来の子どもたちへ伝えることができれば、この探究活動がより実のりあるものになるだろうと私は信じている。

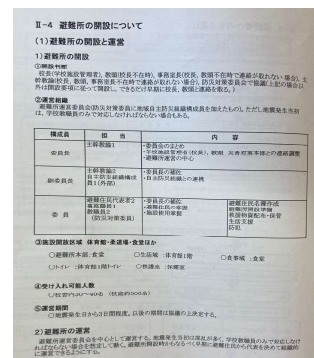
謝意 .

この場を借りて、私達の探究活動に関わってくださった、山田陽子さんをはじめ、ご指導いただいた先生方、人と防災未来センターの関係者様に感謝申し上げます。

注 .

参考文献

- ・仙台第三高等学校における避難所運営マニュアル



[令和4年6月30日復興庁内閣府\(防災担当\)消防庁東日本大震災における震災関連死の防災担当\(内閣府復興庁\)令和4年6月30日](#)

[災害避難時における要援護者支援マニュアル 平成18年4月 石巻市](#)
石巻市平成18年4月

資料(データ一覧)

人と未来防災センターでの参考資料

